

# 公共トイレのバリアフリー改修 事例集



千葉県マスコットキャラクター「チーバくん」

平成26年3月  
千葉県健康福祉部障害福祉課

# 目 次

## 1 公共トイレのバリアフリー改修事例募集の概要

(1) 目的	2
(2) 聞取り項目	2
(3) 募集期間	2
(4) 改修を行う際に配慮するポイント	2
(5) 募集結果（寄せられた事例）の概要	5
① 寄せられた事例の数	
② 改修を行う上での制約	
③ 改修内容	

## 2 バリアフリー改修の事例

(事例1) 手すりを設置した事例（君津市）	9
(事例2) 和式便所を洋式便所に替えた事例（君津市）	12
(事例3) オストメイト対応設備を設置した事例（印西市）	14
(事例4) 公園のトイレの改修事例（館山市）	16
(事例5) オストメイト対応の多機能トイレへの改修事例（八千代市）	18
(事例6) 全面的なトイレの改修事例（船橋市）	21
(事例7) 中学校のトイレの改修事例（船橋市）	24
(事例8) 中学校のトイレの改修事例2（市原市）	27
(事例9) 駅構内の公衆トイレの改修事例（小湊鉄道）	29
(事例10) 駅構内のトイレの改修事例（JR 東日本）	31
(事例11) 電車車両のトイレの改修事例（JR 東日本）	33
(事例12) 高速道路 PA でのトイレの改修事例（NEXCO 東日本）	35

## はじめに

今現在、障害と関わりのない方でも、突然の怪我や病気、加齢による身体機能の低下や生活習慣病等により、自分自身や身近な人が障害を持つことも十分に考えられます。

また、本県は今後、超高齢社会を迎えることとなり、障害と関わる方が多くなるものと予想されます。

障害のある方が地域社会で暮らしていくためには、建物や交通機関等の物的バリアを解消する必要があり、特に公共トイレのバリアフリー化については、障害のある方が安心して外出する前提として必須のものとなっています。

公共トイレのバリアフリー化は、単なる建物の構造上の問題ではなく、障害のある方やその方を身近で支える方の生活そのものをよりよくしていくものです。

そこで、本県では、「障害のある方が使いやすいトイレの設置推進」に取り組むこととし、その方策として、県内市町村や関係機関に対して公共トイレのバリアフリー改修事例の募集を行い、その結果を広く周知することによって、県内の公共トイレのバリアフリー化を促進していくため、本事例集を作成することとしました。

本事例集が、障害のある方にとって暮らしやすい街づくりのため、公共トイレの管理を行う市町村や、今後、障害のある方向けのトイレに改修しようとしている企業・団体等の一助となれば幸いです。

千葉県健康福祉部障害福祉課

## 1 公共トイレのバリアフリー改修事例募集の概要

### (1) 目的

公共トイレのバリアフリー改修事例を募集し、それを広く周知することによって、障害のある人が使いやすい公共トイレへの効果的な改修を促進する。

### (2) 聞取り項目

- ① 改修前の状況（背景や課題）
- ② 改修するうえでの制約
- ③ 改修内容
- ④ 改修後の状況
- ⑤ 費用
- ⑥ 工期
- ⑦ 図面
- ⑧ 写真

### (3) 募集期間

平成25年8月13日～同年9月13日

### (4) 改修を行う際に配慮するポイント

#### ● 手すりと洋式便器の設置

足腰が弱い方や車いすの方がトイレを使用する場合、和式便器では利用が困難であるとともに、姿勢保持のため手すりの設置が必要。

また、便房内に手すりを設置するだけでなく、トイレの入り口から便房内にかけての設置も有効である。

#### ● わかりやすく見やすい操作ボタンの設置

細かい操作や新しい機能はわかりづらいため、わかりやすく見やすいように工夫して操作ボタンを設置する。



## ● 広いスペースの確保

車いす利用者がトイレを使用するためには、一人で車いすに乗ったままトイレに入り、ドアが閉められ、便器に移乗又は接近して便器が使用できるなど、自らの力で使用できるようにスペースを確保することが求められる。その際、車いすが回転、切り返しができる広さが必要であるが、電動車いすの場合、手動車いすより回転半径が大きいことを考慮する必要がある。

また、視覚に障害がある方の中には、盲導犬と一緒にトイレに入る方もいるため、それらの状況を踏まえ、広さの検討を行う必要がある。

なお、車いす利用者の中には、トイレ内で回転しなくてもトイレを利用可能な方もいるので、車いすが回転可能な多目的トイレを1つ以上確保した上で、広めの一般トイレを確保することも考えられる。

## ● 容易に施錠可能なドアのカギ

指や上肢が不自由な方でも容易に施錠できるような構造のものとする。

## ● 荷台・着替え台・フック・鏡の設置

オストメイトの方の中には、排泄ケアのために小物等を持ち運んでいる方がいるため、小物がおける台が必要となる。また、腹部をはだける必要があるため、着替え台やコートかけフック、身だしなみやパウチの装着状態を確認するための鏡があることが望まれる。



## ● 呼び出しボタンの設置

万が一床に倒れた場合に通報ができるよう、便器周辺の床近くの壁に呼び出しボタンを設置することが望ましい。



### ● フラッシュランプ等の設置

聴覚に障害がある方が個室に入っているときは、音による情報が入らないため、非常時に備え、フラッシュランプ等を設置することが考えられる。

### ● 多様なニーズに応じたバリエーション

様々な障害に対応できるように、できるだけトイレには多様なバリエーションを設けることが望ましい。(例えば、上肢に障害がある方のための「温水洗浄便座」、衣類の着脱やオムツの交換などに対応する「大型ベッド」等)

なお、設備内容が外部からわかるような表示も必要である。

### ● 案内の表示

トイレの入り口においては、各便房内の情報（便器の配置等）を表示することが望ましい。その際は、視覚や聴覚に障害がある方の為に、触覚で認知できる平面図や音声案内を設置することが求められる。

また、目的のトイレが使用中だった場合に備え、他のフロア等のトイレの位置を表示すると、その時々に応じた行動が選択可能である。

その他、視覚に障害がある方にとっては、トイレのある場所までの誘導のための点字ブロックの設置も必要と考えられる。



## (5) 募集結果（寄せられた事例）の概要

### ① 寄せられた事例の数

33事例

### ② 改修を行う上での制約

#### 【制約】

公共トイレの改修を行う上での制約は、特にトイレの設置場所が観光地や学校等の場合

- 改修の工期が限られていること
  - 改修対象のトイレの使用頻度が多いこと
- が「改修を行う上での制約」として挙げられた。

#### 【対応】

上記の【制約】に対する対応として、

- 工期の調整（観光シーズンを避ける等）
  - 仮設トイレの設置
- を行い、トイレの使用者へ影響が出ないよう配慮を行っていた。

### ③ 改修内容

具体的なトイレの改修内容としては、

- 和式便所から洋式便所への変更
- 手すりの設置
- 扉の変更（内開き扉からスライド式等）
- スペースの拡張
- 段差の解消
- オストメイト対応への変更
- ベッド・おむつ台等の設置

等が挙げられていたが、トイレを使いやすくするための手段として、トイレを改修するのではなく、多機能トイレの新設で対応したという回答も寄せられた。

また、一部の事例では、トイレそのものを改修するだけでなく、

- 車いすでの寄り付き可能な洗面台の設置
- トイレの入り口に、トイレ案内図の設置及びその点字表示の移動の配慮も行っていた。

## 注意点

多機能トイレを新設することで、障害のある方への配慮を行う場合でも、利用者の特性に応じて配慮すべき事項は多種多様であり、スペース・配置・設備に関して的確に配慮した設計が必要となることに留意する必要がある。

例えば、「多様な利用者に配慮したトイレの整備方策に関する調査研究報告書」（平成24年3月 国土交通省総合政策局安心生活課）によると、車いす利用者に対する多機能トイレ等の利用実態アンケートを行ったところ、105名中67名（63.8%）の方が、「いろいろな機能が盛り込まれたことで使いにくくなった（車いすがよくあたる、他の利用者が良く使う）」と回答しており、一般のトイレに改良を加えず、多機能トイレに機能を集中させすぎると、多様な特性の方が全て多機能トイレを使わざるを得なくなり、多機能トイレの利用集中が予想される。

そのため、多機能トイレの利用者が一般トイレを利用できるように一般トイレに対する配慮を行う等、トイレ空間全体を有効活用し、多機能トイレから一般トイレへの利用分散を促すことが必要と考えられる。

ただ、広いスペースを必要とする便房を確保すると、総便器数が減少することも想定されるため、近接するスペースや倉庫スペースなどを活用すること等も併せた、個々の状況に応じた柔軟な検討・改修が求められる。



## 2 バリアフリー改修の事例

紙面の都合上、寄せられた事例の全てを載せて  
おりませんので、その旨、御理解くださるよう  
お願いします。



# 事例 1

●団体名：君津市

●種類：手すりを設置した事例（庁舎（施設）内のトイレ）

●改修前の状況（背景や課題）：市役所 1 階にある来庁者が利用できるトイレは、利用者が多いにも関わらず、個室が狭く、特に和式の便器では立ち座りの際に動作が不安定となり転倒等の危険があった。

●改修するうえでの制約：来庁者の多い 1 階にあるトイレのため、開庁日は工事が難しい。

●改修の内容：個室の壁面に手すりを設置

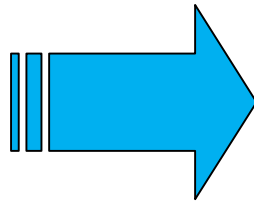
●改修後の状況：手すりの設置により、姿勢の保持や立ち上がりの際に支えができ使いやすくなった。

●費用：189,000円

●工期：3週間（開庁日は来庁者が多く、土曜日に工事を行ったため）

●写真

Before



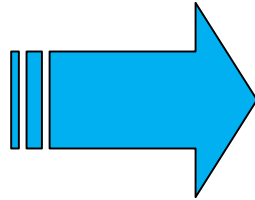
After

・男子トイレ（和式二基、洋式一基）

・個室に手すりを設置



Before



After

・女子トイレ（和式二基、洋式一基）

・個室に手すりを設置

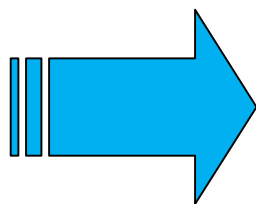


## 事例 2

- 団体名**：君津市
- 種類**：和式便所を洋式便所に替えた事例（観光地（三石山）のトイレ）
- 改修前の状況（背景や課題）**：近隣に寺院があり紅葉の季節から年末年始にかけて参拝者が多い。特に高齢者が多く、和式の便器では立ち座りの際に動作が不安定となり転倒等の危険があった。
- 改修するうえでの制約**：観光地のトイレなので、常にトイレが使用できる状態にしなければならなかった。そのため、工事期間中は仮設トイレを設置した。
- 改修の内容**：便器を和式から洋式に換え、手すりを設置。汲み取り式だったものをバイオトイレに変更。
- 改修後の状況**：洋式のため動作全般が楽になった。また手すりが設置されたことにより立ち座りの際の支えができ動作が安定した。
- 費用**：約 5 2 0 万円
- 工期**：約 2 ヶ月弱

●写真

Before



After



・男子トイレ (小便器二基)



・一基を洋式トイレに交換  
・手すりを設置



・女子トイレ (和式二基)



・洋式トイレに交換 (二基)  
・手すりを設置

## 事例3

●団体名：印西市

●種類：オストメイト対応設備を設置した事例  
(公民館、文化ホール・図書館等公共施設内のトイレ)

●改修前の状況(背景や課題)：不特定多数の方が来館し、滞在時間も比較的長い施設であることから、外見上は身体障害者であることが判別しにくいオストメイトの方でも安心して施設を利用できる環境を整備する必要があった。

●改修するうえでの制約：施工上の制約は特になかったが、平日は多くの利用者がいるため、工事は施設の休館日に実施した。

●改修の内容：身障者用トイレ内にオストメイト対応設備や手すりを整備した。

●改修後の状況：より多くの方が安心して利用できるトイレとして、機能の向上と施設のバリアフリー化が図られた。

●費用：総合福祉センター・文化ホール・小林公民館	5,355,000円
小倉台図書館・保健福祉センター	3,150,000円
本埜公民館	915,000円
ふれあいセンターいんば	609,000円

●工期：総合福祉センター・文化ホール・小林公民館	約1ヵ月
小倉台図書館・保健福祉センター	約20日
本埜公民館	約半月
ふれあいセンターいんば	約2ヶ月



●写真

Before

○文化ホール



- ・多目的トイレ
- ・手すりのみ設置

After



- ・オストメイトトイレ設置
- ・手洗い場を移設

○総合福祉センター



- ・多目的トイレ
- ・手すりのみ設置



- ・オストメイトトイレ設置
- ・手洗い場を移設

## 事例 4

●団体名：館山市

●種類：公園のトイレの改修事例

●改修前の状況（背景や課題）：城山公園の中腹の園路沿いには昭和41年にトイレ2か所（孔雀園・児童遊園）を設置したが、汲取り式であり老朽化したため、児童遊園を利用する親子連れを中心とした利用者に不評であった。

●改修するうえでの制約：補助金による改修をおこなったため、期間的、予算的な制約があった。

●改修の内容：汲み取り式の和式便器各3基、小便器各4基だったトイレ2か所を児童遊園1か所に改め、洋式便器3基（うち1基は、障害のある方でも使える多目的トイレ）、小便器1基を設置した。

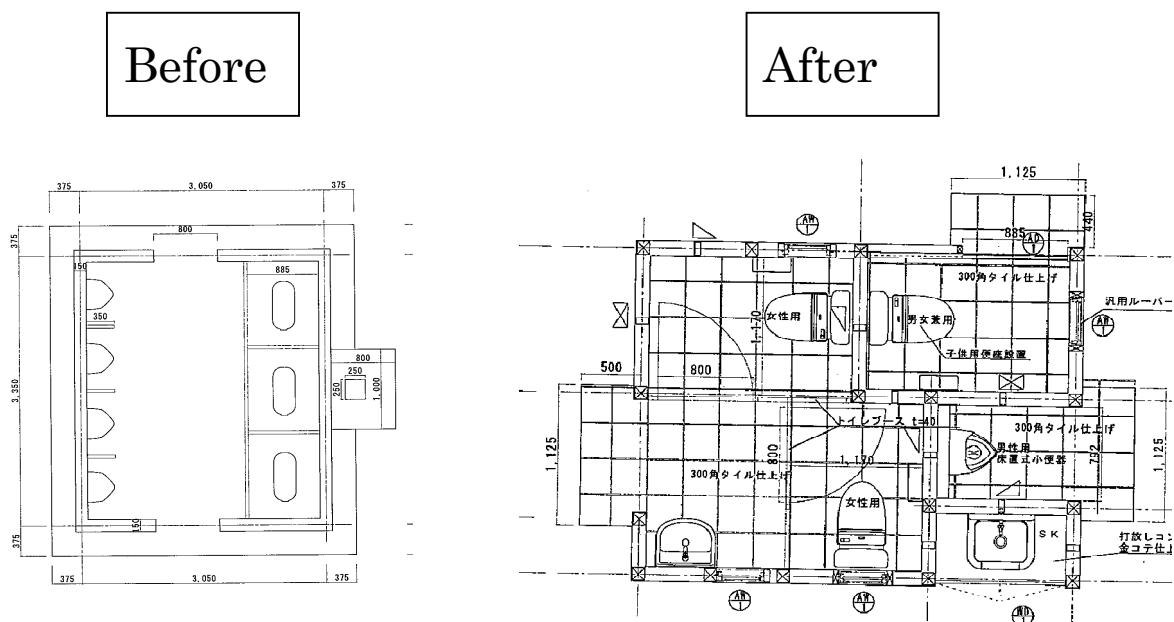
利用者が少なかった孔雀園トイレは撤去した。

●改修後の状況：誰もが利用しやすいものになった。

●費用：約730万円

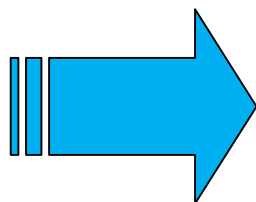
●工期：4ヶ月

●図面



●写真

Before

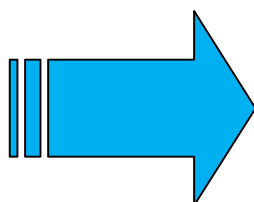


After



- ・汲み取り式
- ・和式3基、小便器4基

- ・水洗式
- ・洋式3基（多目的トイレ含む）、小便器1基



- ・和式便器
- ・手すりなし

- ・洋式便器
- ・手すり付き

## 事例 5

●団体名：八千代市

●種類：オストメイト対応の多機能トイレへの改修事例（市民会館のトイレ）

●改修前の状況（背景や課題）：

八千代市市民会館は、昭和48年に設置された施設であり、竣工後40年近くが経過していることから、施設、設備ともに老朽化が進み、耐震補強が必要な状況であった。

そこで、耐震補強に加え、大規模改修を行う上で、トイレについても利便性を考慮し、和式便器が中心の既存トイレから洋式便器を中心とした構成に変更することが求められていた。

●改修するうえでの制約：

増築を伴わない改修工事であることから、トイレ面積に限りがあるものの、和式便器より洋式便器の方がブースの大きさが30cm以上大きくなるため、便器数の見直しが必要とされた。

●改修の内容：

和式便器が中心の既存トイレから洋式便器を中心とした構成に変更し、便器や洗面台に手すりの設置を行った。また、大ホールの身障者トイレをオストメイト対応の多目的トイレとして改修した。

●改修後の状況：

便器や洗面台の入れ替えはもちろんだが、内装もシックで清潔感のある雰囲気に変更したため、利用者からは概ね好評である。ただ、小ホール（収容439名）用のトイレや、3階会議室（収容計250名）用のトイレは、その収容人数に対して便器の数が少なく、休憩などで同時に利用があるとすぐに行列が出来てしまい、不便さも指摘されている。

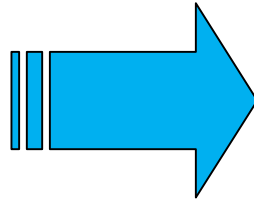
●費用： ー

●工期： ー

●写真

Before

○女子トイレ便器（大ホール棟）



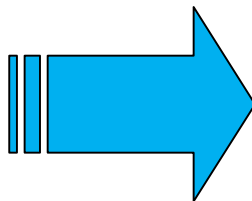
After



・和式トイレ

・洋式トイレ

○男子トイレ小便器（小ホール棟）



・手すりなし

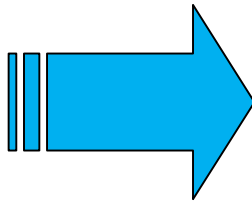
・手すりあり

●写真

Before

After

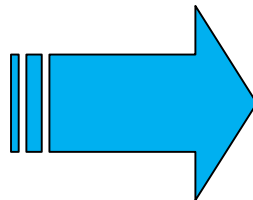
○女子トイレ洗面台（小ホール棟）



・手すりなし

・手すりあり

○多目的トイレ（大ホール棟）



・オストメイト対応トイレなし

・オストメイト対応トイレあり

## 事例 6

●団体名：船橋市

●種類：全面的なトイレの改修事例（公園のトイレ）

●改修前の状況（背景や課題）：歩行者専用道に面した公園内にあり、公園利用者のほか、通行中の使用者も多いトイレである。

しかし、既存施設は公園管理事務所と一体となった築35年のRC（鉄筋コンクリート）造で、男女兼用のつくりとなっていた。中に多目的便房が設置されていたが、鋼製の片開き戸は非常に重く、車椅子利用者や高齢者等が使いやすい構造とは言えなかった。

●改修するうえでの制約：公園管理事務所と一体の建築物であり、便所部分のみを改修する計画だったが、①建物自体が老朽化していること、②バリアフリー化を図る上で園路とのレベル調整から床面を下げる必要があったこと、③元が男女兼用であるため内部改修で男・女・多目的を分けるにはレイアウトが困難だったことから、便所部分のみ解体して新たに設置する必要があった。

●改修の内容：男女兼用から、多目的トイレ・男子トイレ・女子トイレを分け、洋式便器を設置した。男女各1ブース内にベビーチェアを設置した。多目的トイレは出入口を軽い材質の引戸とし、洋式便器はパウチ・しびん洗浄栓を併設しオストメイト対応としたほか、オムツ交換用ベビーシートも設置した。

同時に前面園路も勾配等をバリアフリー対応とし、トイレ敷地内も多目的トイレ入口に至る勾配を5%以内とした。

●改修後の状況：兼用トイレから分け、明るくしたことで、入りづらい雰囲気が一新した。

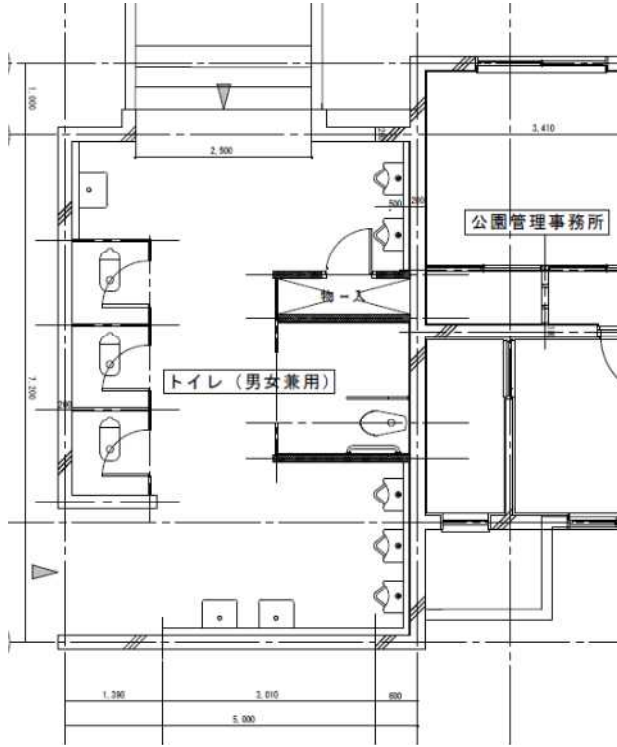
経路の勾配をゆるやかにしたこと、手すりの設置等で、車椅子利用者や高齢者等にも使いやすいものとなった。

●費用：約2,300万円（既存建物解体・外構工事含む）

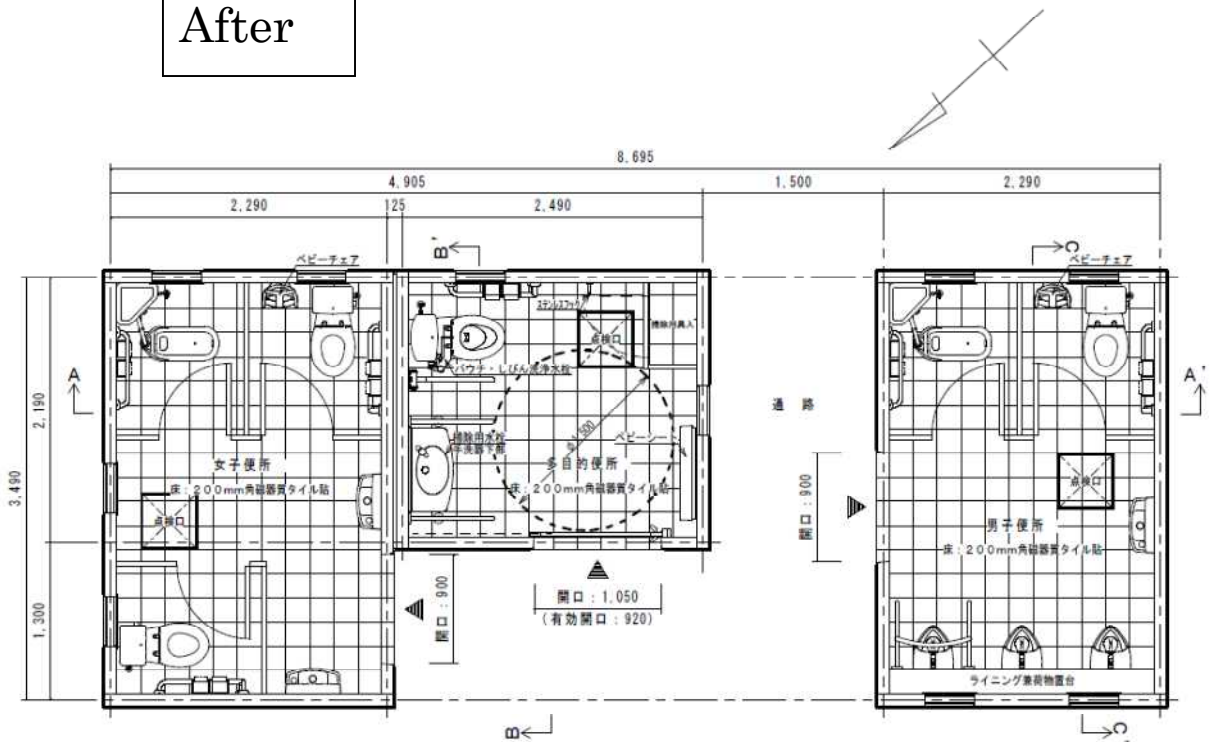
●工期：約5ヶ月半

● 図面

Before



After





●写真

Before



- ・管理事務所と一体の建物
- ・男女兼用

After



- ・トイレ部分のみ解体・新たに設置
- ・男子・女子・多目的を分ける

## 事例 7

●団体名：船橋市

●種類：中学校（海神中学校）のトイレの改修事例

●改修前の状況（背景や課題）：校舎を建設してから30年以上経過し、トイレ内の破損、汚れ、臭い及び設備、配管等の劣化が見られ、生徒が普段使用するには衛生的環境を改善する必要があるがあった。また、洋式トイレより和式トイレがいまだに多く、現在の生活様式から見れば洋式トイレを要望する声が高かった。また、ここ数年障害のある生徒が多くなったが、障害のある生徒が使いやすいトイレがなかった。

●改修するうえでの制約：全面的な改修の為、工期が長く、生徒に長く不便を強いるので、夏休中に解体を終える必要があるがあった。

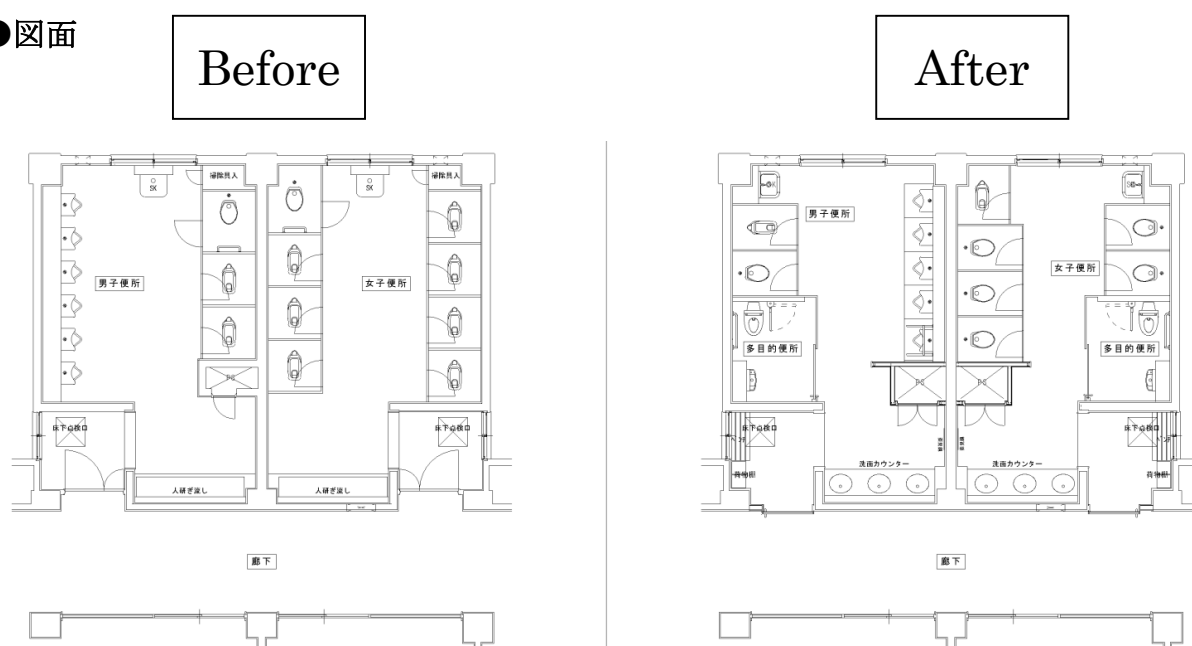
●改修の内容：トイレ1系列（男女とも）を全面的に改修し、床を湿式から段差のない乾式に、また、和式トイレを1個だけとし、残りをすべて洋式トイレとした。また、障害のある生徒が使いやすいように、新たに専用の多目的トイレを設置した。

●改修後の状況：全面改修により、衛生的環境が改善できたことと、洋式トイレが大幅に増えたことで、障害のある生徒にとって使いやすいトイレとなった。また、一般の生徒にとっても気分よく使用できるようになった。

●費用：約6,160万円

●工期：約7ヶ月

●図面



●写真

Before



- ・和式トイレ

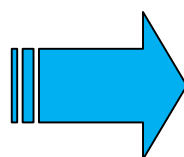
After



- ・ほぼすべてが洋式トイレに



- ・内開き扉
- ・狭いスペース
- ・汚れ、臭い等で衛生的環境に優れない



- ・スライド式の扉
- ・広いスペースで車椅子が移動しやすくなった
- ・衛生的環境が改善された

●改修実績一覧

平成15年度	三咲小学校、三山小学校、大穴中学校
平成16年度	葛飾小学校、前原小学校
平成17年度	丸山小学校、中野木小学校、薬田台小学校、御滝中学校
平成18年度	大穴北小学校、坪井中学校
平成19年度	高根台第三小学校、宮本中学校
平成20年度	行田東小学校、高根台中学校
平成21年度	若松小学校、湊中学校
平成22年度	宮本小学校、習志野台第一小学校、飯山満中学校
平成23年度	小室小学校、三山中学校
平成24年度	湊町小学校、南本町小学校、市場小学校、若松中学校、海神中学校、旭中学校、二宮中学校

## 事例 8

●団体名：市原市

●種類：中学校（市立双葉中学校）のトイレの改修事例 2

●改修前の状況（背景や課題）：中学校校舎内のトイレであるため、障害を持った生徒の使用や、災害時に避難場所となった場合に多様な方が使用する事が考えられる。しかし、大多数が和式トイレであるとともに、多目的トイレが設置されていない為、車いすの方や片マヒの方が使えない状況であった。

●改修するうえでの制約：工事期間中、生徒数に対して多くのトイレが使用できないため、仮設トイレを設置して対応した。またその分の賃借費用が掛かった。

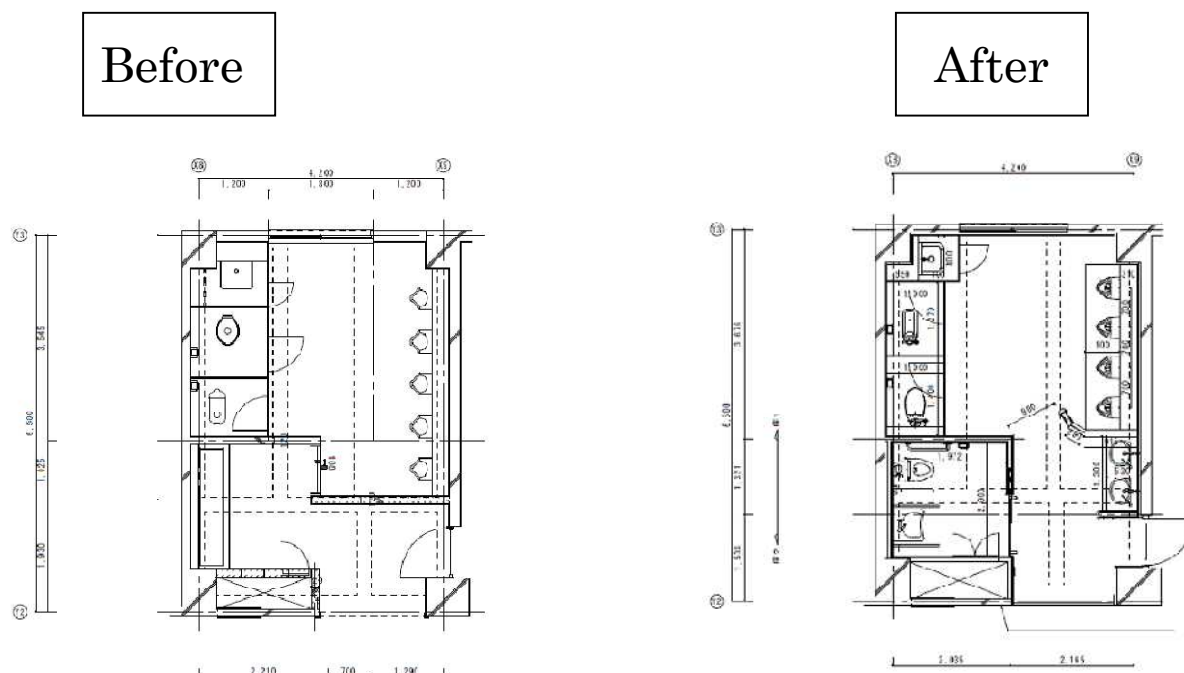
●改修の内容：湿式トイレから乾式トイレへ変更し、床の段差を無くすとともに、和式便器から洋式便器への改修工事を行った。また、多目的トイレの設置や手すりの設置を行った。

●改修後の状況：車いすの方や片マヒの方等、障害のある方でも、スムーズな移動、使用中の姿勢保持ができるようになり、使いやすいものとなった。

●費用：約 6,600 万円

●工期：約 11 ヶ月

●図面



●写真

Before

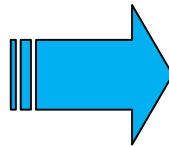


- ・和式トイレ

After



- ・洋式トイレ
- ・スライド扉



## 事例 9

●団体名：小湊鉄道株式会社

●種類：駅（高滝駅）構内公衆トイレの改修事例

●改修前の状況（背景や課題）：駅のホームにくみ取り式の和式トイレが設置されていた。

観光地に近い駅のため、市原市にお願いして駅前広場にバリアフリートイレを設置していただいた。

●改修するうえでの制約： —

●改修の内容：

洋式トイレ、手すり、オムツ交換用ベッド備え付け

●改修後の状況： —

●写真

Before

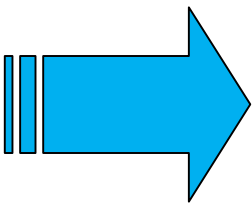


- ・和式トイレ
- ・手すりなし

After



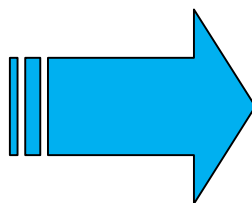
- ・洋式トイレ
- ・手すりあり



- ・狭いスペース



- ・スライド式の扉
- ・広いスペース





## 事例 10

●団体名：東日本旅客鉄道株式会社

●種類：駅構内のトイレの改修事例

●改修前の状況（背景や課題）：設置場所が駅構内であるため、多様な方が多く使うトイレである。身体に障害のあるお客様や小さなお子様連れのお客様でも安心して使用できるトイレを設置することを目的とした。

●改修するうえでの制約：特になし

●改修の内容：車いすの方等でも使いやすいよう、洋式にし、手すりの設置や、スペースを拡張した。また、出入り口もスライド式に変更した。また、入り口に点字表示を行った。

●改修後の状況：車いすの方や片マヒの方、高齢で杖を使用されている方でも、スムーズな移動、使用中の姿勢保持ができるようになり、使いやすいものとなった。

●写真



- ・洋式トイレ
- ・手すりを付け、姿勢保持しやすくした
- ・ベビーチェア
- ・引き戸



- ・トイレ案内図
- ・点字表示

# 事例 1 1

●団体名：東日本旅客鉄道株式会社

●種類：電車車両のトイレの改修事例

●改修前の状況（背景や課題）：旧式トイレは狭く和式であった。列車のトイレは多様な方が多く使うトイレである。身体に障害のあるお客様や小さなお子様連れのお客様でも安心して使用できるよう広めのトイレとした。

●改修するうえでの制約：特になし

●改修の内容：洋式にし、手すりの設置や、スペースを拡張した。また、出入り口もスライド式に変更した。

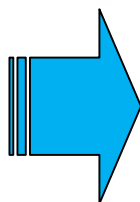
●改修後の状況：トイレ内でのスムーズな移動、使用中の姿勢保持ができるようになり、使いやすいものとなった。

●写真

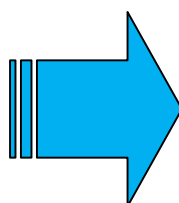
Before



After



- ・スペース拡大
- ・引き戸



- ・洋式トイレ
- ・手すりを付け、姿勢保持しやすくした

トイレを改良したものではなく、新たに導入した車両に整備されているトイレである。

## 事例 1 2

●団体名：東日本高速道路株式会社

●種類：高速道路 PA でのトイレの改修事例

●改修前の状況（背景や課題）：

〔男女トイレ〕

- ・小便器や大便器ブースに 10cm の段差がある。
- ・車椅子で利用可能な大型ブースがない。
- ・洗面台が車椅子の寄り付き可能な構造になっていない。
- ・オストメイト設備がない。
- ・洗浄便座、手洗い温水便座が設置されていない。

〔多機能トイレ〕

- ・多目的ベッドが設置されていない。
- ・洗浄便座、手洗い温水便座が設置されていない。

●改修するうえでの制約：

- ・使用頻度の多いトイレのため、工事期間中も仮設トイレを設置する等、お客様への影響を最小限に抑えるよう配慮した。

●改修の内容：

- ・パーキングエリア全体改装に併せて、トイレ棟を改修（1棟）、新築（2棟）した。

●改修後の状況：

〔男女トイレ〕

- ・トイレ内に段差はなく、バリアフリーとなっている。
- ・車椅子で利用可能な大型ブースが設置されている。
- ・オストメイト設備が設置されている。
- ・車椅子の寄り付きが可能な洗面台を設置している。
- ・洗浄便座、手洗い温水便座を設置している。

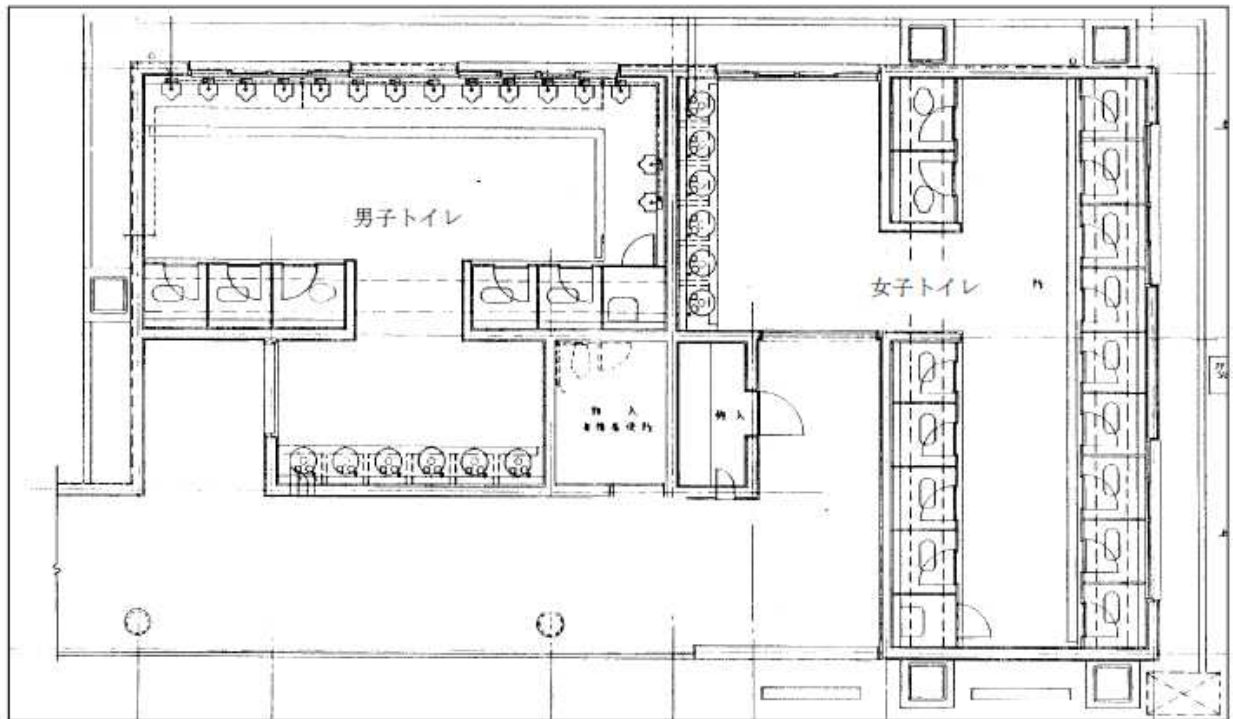
〔多機能トイレ〕

- ・可動式の多目的ベッドを設置している。
- ・洗浄便座、手洗い温水便座を設置している。

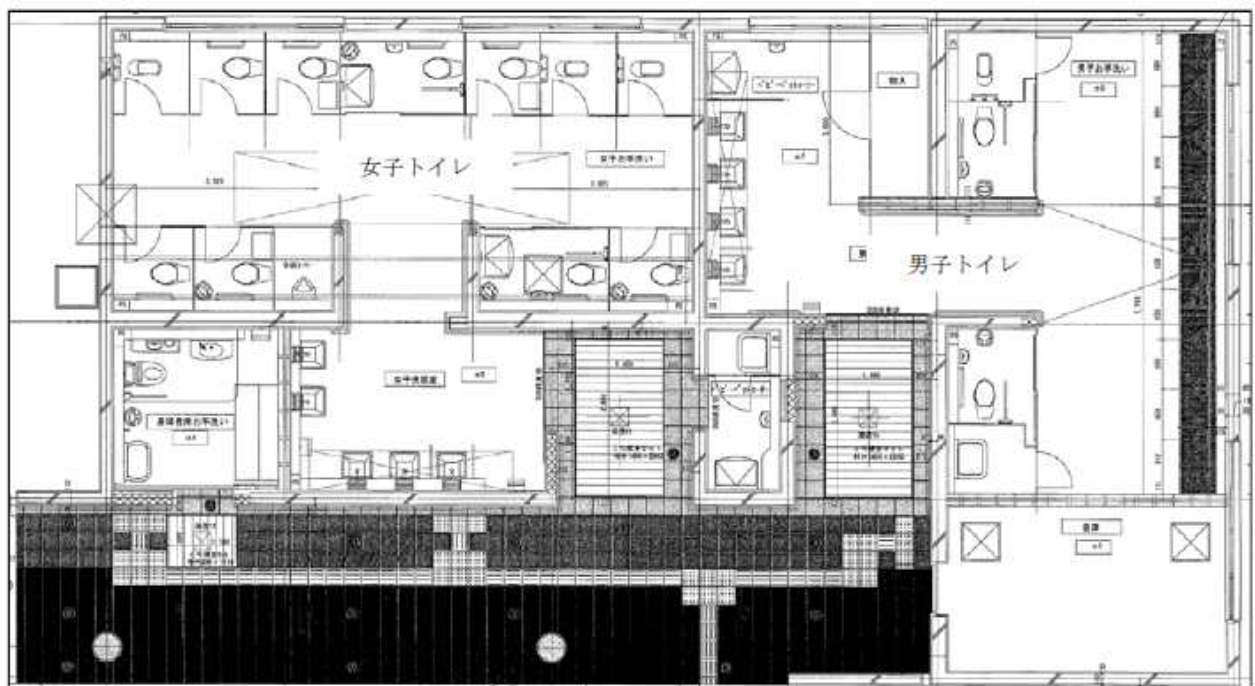
●工期：17ヶ月

● 図面 (幕張 PA 下り線 トイレ棟改修)

Before



After



●写真

Before



- ・床のバリアフリー
- ・小便器、大便器に段差

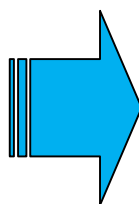
After



- ・床のバリアフリー
- ・段差がなくフラット



- ・洗面台のバリアフリー
- ・車椅子の寄り付き不可能



- ・洗面台のバリアフリー
- ・車椅子の寄り付き可能